

平成 25 年 12 月 11 日

## 経済経営学類生、日銀グランプリ・敢闘賞受賞！

日本銀行主催の小論文・プレゼンテーションコンテスト「日銀グランプリ」に本学・経済経営学類生 4 名が応募した小論文が、書類審査による予選を通過し（120 チーム中、上位 5 チームに選定）先日、日銀本店において行われた決勝大会に参加致しました。その結果、**敢闘賞**（第 4 位タイ）を**受賞**致しました。同コンテストで、北海道・東北地区からの参加チームが決勝大会に進出したのは、今回が初めてです。

### 日銀グランプリとは

「日銀グランプリ～キャンパスからの提言～」とは、日本銀行が主催する、大学生を主な対象とする金融分野の小論文・プレゼンテーションのコンテストです。今年（第 9 回大会）は全国の 39 大学から計 120 編の応募がありました。

### ゼミにおける「日銀グランプリ」の位置づけ＝学生中心の教育

大学で学生が身に付けるべきは単なる暗記型の「知識」ではなく、社会で活用できる「知識」であるべきだという考えが強くなってきており、「学生による能動的な活動」の重要性が高まっています。

こうした「知識」は、学生が授業で学んだことと、既に学生が持っている知識を関連付け、その都度、自分なりの世界像を構築すること（「気づき」と「振り返り」を連続して行うこと）で生成され、それこそが社会において活用できる「知識」（実践知・活用知）になり得るものだと思います。

以上の理由から、ゼミでは、日銀グランプリへの参加（活動）を「**学生中心の教育**」（アクティブラーニング）として位置づけています。

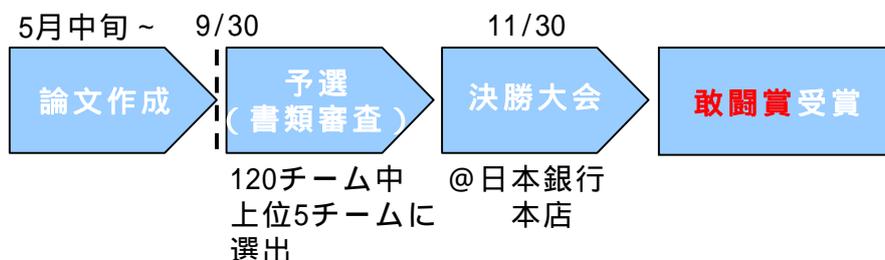
### 受賞論文について

証券市場活性化に向けた新しい金融教育スキームの構築  
～「2-Step 投資学習プログラム」と「投資 Caf é」の創設～

稲村	有基	（経済経営学類 3 年）
鈴木	慧	（同 4 年）
鈴木	拓哉	（同 3 年）
田中	ひかり	（同 3 年）

### 審査の経緯

上記学生 4 名が応募した小論文が、書類審査による予選を通過し、11 月 30 日（土）に日本銀行・本店において開催された決勝大会（審査員長：岩田規久男・日本銀行副総裁）に参加しました。当日にはプレゼンテーション、ならびに審査員との質疑応答を行い、審査の結果、**敢闘賞を受賞**致しました。



### 敢闘賞受賞について

これまで、本学類からは第 4 回大会（2008 年）において受賞した佳作（決勝進出チームに次ぐ賞で、第 6 位に相当）が最高でした。

同コンテストでの決勝大会への進出、ならびに敢闘賞受賞は、**北海道・東北地区の大学等で初めて**となります。

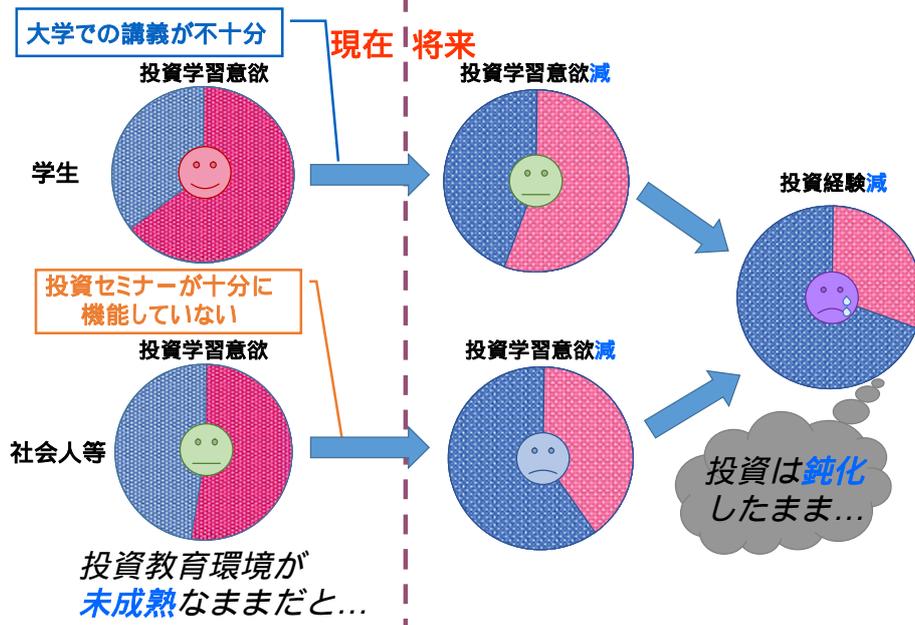
### 受賞論文の概要について（学生より報告）

応募論文は、（有価証券等への）投資に関するアンケート調査（本学学生 324 人、社会人等 272 人の計 596 人を対象）を基に、証券市場を活性化させるためにはどのような方策が必要であるかについて考察したものです。

アンケートの分析結果より、明らかになった以下の点に着目しました。

- (1) 学生の投資への潜在的関心度は高い（70%が「投資について学んでみたい」と回答）が、61%が既存の内容・形式の講義では投資知識を十分に習得できず、学生のニーズに応えるものとなっていないと回答したこと。
- (2) 預貯金以外の資産運用を考えている社会人等は一定割合（54%）いるものの、実際に投資を行う割合は低く（32%）、投資を行わない最大の要因は「知識がない」と回答したこと（77%）。
- (3) 社会人等の（投資に関する知識を得る一つの方法である）投資セミナーの受講経験割合は低く（12%）、既存の投資セミナーが投資への関心を喚起させるには十分に機能していないこと、ならびに開催形式・内容等が受講側のニーズと乖離しているという多くの声が寄せられたこと。

われわれは、これらの結果を踏まえ、学生・社会人等を問わず、投資教育環境の未成熟が投資の伸び悩みをもたらしているのではないかと考えました。

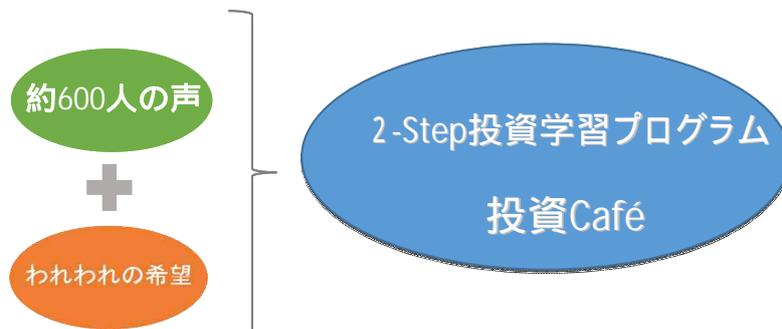


そこで、投資知識の習得、関心の向上を目的とし、

**学生に向けた「2-Step 投資学習プログラム」**

**社会人等に向けた「投資 Caf é」**

の創設を提案しました。この提案は、約 600 人の方々からの投資教育に対する活きた「声」に、「こんな授業があったら受けてみたい!」、「こんな Caf éがあったら、将来、仕事帰りに、休日に立ち寄ってみたい!」というわれわれの希望を反映させたものです。



「2-Step 投資学習プログラム」は、前期は投資に関する基礎知識の習得を目的とした内容、後期は投資の実践をテーマに、投資ゲームを行い、ポートフォリオの組み方を体感できる授業プログラム（前期と後期の通年で実施）です。

「投資 Caf é」には利用者の様々な目的に柔軟に対応できる環境・設備が備わっている点が最大の魅力です。さらに、「投資 Caf é」では、年齢や性別、投資に関する知識レベルに応じた対象者別のミニ講演を定期的実施することで、利用者が自分の関心に応じた講演を自由に選択できることを可能とし、各利用者のペースに合わせて無理なく段階的に参加できるという特性も有しています。



これらの方策を包括的、かつ機能的に実施することにより、学生、社会人等の双方に対し、投資に関する確かな知識を提供することが可能となり、また、このスキームを継続的に実施し、教育を含めた広義の意味での投資環境の整備を行うことが、長期的・安定的な証券市場の活性化に寄与すると考えました。



なお、受賞論文、決勝大会でのプレゼン資料、ならびに審査員の講評については、後日、日本銀行ホームページに掲載される予定です。



(お問い合わせ先)  
 福島大学経済経営学類・准教授  
 熊本 尚雄  
 電話：024-548-8434